

## 成果の説明書

(氏名)鈴木耕太郎	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p><b>○教育上の成果に関する事項</b></p> <p>2021年度は通年で演習Ⅰ(金曜4限)、演習Ⅱ(木曜3限)を担当、また前期には博物館概論(金曜1限)、後期には基礎演習(木曜5限)、民俗学(木曜1限)、地域文化論(金曜5限)を担当した。また前期リレー講義として「地域づくり論」(水曜3限・第5回・第6回)、後期リレー講義として「地域づくりを学ぶ」(水曜3限・第9回)も担当した。新型コロナウイルス感染症の影響で「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発令される中での講義となったため、グループワークやフィールドワークは例年に比べるとやや自重せざるを得なかったが、それでも3年生「演習1」では地域政策学部ゼミナール協議会主催のプレゼンテーション大会に出場するために準備を行ったり(3班に分けて全員出場)、あるいは2・3年生で2022年3月に(企画立案は学生に全て任せる形で)安中市にてフィールドワークを実施したりと最低限の活動は行ってきた。講義では、前期・博物館概論では受講生同士でのディスカッションを取り入れた。後期の民俗学・地域文化論においては、感染症予防の観点からディスカッションではなく、代わりに「パパパコメント」なる機能を使って受講生からの声にリアルタイムで反応できるようにした。なお、毎年好評である有志による中間レポート発表会は民俗学・地域文化論で実施した。</p> <p><b>○職務上の成果に関する事項</b></p> <p><b>【学外業務】</b></p> <p>1：立命館大学日本文学会 評議員 2：高崎経済大学地域政策学会 理事 3：群馬歴史民俗研究会 例会委員 4：伝承文学研究会 同人</p> <p><b>【社会貢献活動】</b></p> <p>1：2021年度教員免許更新講習・講師(2021年8月20日・於：高崎経済大学)。 2：株式会社食文化運営「うまいもんblog」内にてコラム連載(不定期)。 3：東北大学災害科学国際研究所・藤沢町史談会主催「疫病退散プロジェクト講演会Ⅱ――疫病の神々――」・講師(2022年3月6日・於：不退山長徳寺(岩手県一関市)・報告論題「牛頭天王とは何者か――信仰の受容と展開を考える――」)。 4：ラジオ高崎「ラジオゼミナール」出演(2022年5月7日・14日放送)。</p> <p><b>○研究上の成果に関する事項</b></p> <p><b>【論文】</b></p> <p>・鈴木耕太郎「陰陽道における牛頭天王信仰――暦注書『篋篋内伝』巻一の読解を中心に――」(『現代思想』5月臨時増刊号(49巻5号)、2021年4月)。</p> <p><b>【学会報告】</b></p>	

・鈴木耕太郎「行疫神・牛頭天王 再考」仏教文学会 5 月例会 (パネリスト報告)、2021 年 5 月 2 日 (オンライン開催)。

**【研究会発表】**

・鈴木耕太郎「平田篤胤『牛頭天王曆神辨』の世界」蓮花寺佛教研究所第 78 回研究会、2021 年 8 月 30 日 (オンライン開催)。

2 その他の事項

・科学研究費助成事業 若手研究 (課題名「中世から近世への転換期に作成された牛頭天王信仰に関するテキストの総合的調査と研究」)。

3 次年度以降の計画・抱負

**【教育面および社会貢献活動】**

教育面においては、授業評価アンケート等を活用し、受講生からの改善要求や要請に応えられるものは積極的に応えていく。また新型コロナウイルス感染症が未だ流行しているこの現在においても、できる限り双方向講義の可能性を模索したい。また、感染症対策を十分行っただうえで、フィールドワークなども実施する予定である。

社会貢献活動でいえば、伝承文学研究会の運営主体である「同人」に加わり、早速、2021 年度に同会の大会会場校を引き受けることになった。同会は「研究会」という名称ではあるが、会員規模、活動実績、査読誌の刊行など実質的には人文系の諸学会とまったく変わらないため、「大会」もまた 100 名規模のものとなる。アルバイトとしてゼミ生の協力を仰ぎながら成功させたい。またその他にも自治体史編纂要員として声を掛けられているほか、2023 年度に群馬県で開かれる学会の運営委員にもなっているため、そちらの活動も精力的に取り組みたい。

**【研究活動】**

2021 年度はすでに採録決定済の論考が 2 本あり、研究会発表も 2 本終えている。また 6 月には学会パネリストとして登壇し、報告を 1 本行うほか、雑誌依頼論考や書籍の分担執筆などもあるため、時間を有効に活用しながらそれぞれ高水準のものを仕上げたい。また 2021 年度 4 月に自身が主催となる「牛頭天王信仰研究会」を立ち上げた。今後は、この会での活動を通してとりわけ地方に眠る牛頭天王信仰の足跡をたどり、研究会一同で牛頭天王信仰研究をさらに活発なものとしたいと考えている。